

県内大学魅力化のためのPBL導入支援フォーラムで学生が発表しました！

8月20日（水）に中日ビルで開催された「県内大学魅力化のためのPBL導入支援フォーラム（主催：中日新聞社）」にてデータサイエンス学部の学生3名が参加しました。

データサイエンス学部の授業の一環として、名古屋市と連携して取り組んだ課題解決型学習（PBL）について、ステージでのプレゼン発表やポスターセッションを行いました。タイトルは「データから見える名古屋市の現状と展望～名古屋市のLINEアンケートを用いたPBL学習～」と題し、SDGsの視点も交えながら名古屋市のLINEアンケートのデータ分析や、その結果から導いた名古屋市への提案や今後の展望などについてプレゼンしました。

発表した内容は、[中日新聞みんなではじめるSDGs](#)のサイトにてご覧いただけます。



発表の様子



ポスターセッションの様子

De La MIRAI NAGOYAに参加しました！

9月13日（土）、14日（日）にキャナルパークささしまなどで開催された「De La MIRAI NAGOYA（デ・ラ・ミライ・ナゴヤ）～未来を創ろう 愛・地球博20周年記念行事～（主催：名古屋市）」に参加しました。本イベントは、愛・地球博開催20周年を迎え、当時サテライト会場があったささしまエリアにおいて、愛・地球博の理念と成果を再認識し、次世代へ継承するとともに、名古屋の多彩な魅力を市内外に発信することを目的として開催されました。

当日は、本学のSDGs達成に向けた取り組み紹介や人文社会学部曾我ゼミの学生に協力いただき、出展ブースにてSDGsにつながる行動を考えるワークショップを行い、来場者と一緒に未来の地球のために「自分にできること」を考えました。



ブース出展の様子



ワークショップの結果

CFT自販機横にペンギン型のリサイクルボックスが設置されました！

本学滝子キャンパス2号館入口のCFT(CUP FOR TWO)自販機横にペンギン型のリサイクルボックスが設置されました。これは、人文社会学部伊藤ゼミ「NCU Global Justice Project」の活動で、ペットボトルの水平リサイクル（ボトルtoボトル）を推進するために、設置されたものです。

ペンギン型のリサイクルボックスは、ペットボトルをボトル本体、キャップ、ラベルに分別して回収できるようになっており、ペットボトルを繰り返しリサイクルすることで、化石資源の使用量やCO₂の削減につながります。

*CFT自動販売機:売上の一部をアフリカ・アジアの子どもたちに学校給食提供を目的として寄付することができる自動販売機





Vol.20より新たな企画としてスタートした研究活動とSDGsのつながりを紹介する第3弾として理学研究科の熊澤慶伯先生の研究や取り組みをご紹介します！

私たちの暮らしに直結！？ DNAからひも解く生き物の多様性



昔から生き物は好きでした。私は工学部で学んだのですが、そこからバイオ分野の生化学の道に進み、留学時から爬虫類の種の分化など、DNAを使った生き物の進化に関わる研究をしてきました。現在はより高度なDNA解析のもと、種や遺伝子の分布や分化を調べることで、生物がどのように進化し、多様性を広げてきたのか、また急速に失われつつある生物多様性を守る研究をしています。遺伝子情報というマイクロな世界を通して、マクロな生物学を見つめなおすことに意義があると感じています。

熊澤先生／理学研究科教授・生物多様性研究センター長

◆生物多様性とは？

一説には1,000万種以上とも言われる地球上の多様な生物種が個体から、種、生態系の各レベルにおいて、互いに影響を与え合いながら生命活動を維持しています。しかし、それら生物の多様性が、主に私たち人間の活動が原因でかつてない速度で減少しています。

◆生物多様性と私たちの生活との関係

私たちは日々、生態系から様々な恩恵（生態系サービス）を受けています。農作物や水をはじめ気候の調整、繊維や資源エネルギーなども生物多様性のもとに享受しています。生物多様性を維持することは、私たちの生活を豊かにするために欠かせません。

(例)



◆生物多様性研究センター

理学研究科附属生物多様性研究センターは、2009年の設立以来、生物多様性の保全や持続的利用を目的として、基礎的研究をはじめ、動植物の試料の収集、保存、分析を行っています。昆虫や貝類など様々な生き物を対象として研究に取り組んでいる研究者がいます。

生物多様性研究センターの活動を動画にまとめています。ぜひCHECK！！▶▶▶



理学研究科 博士後期課程1年 横井さん

私は熊澤研究室で学んでおり、貝類の中でも陸産貝類といわれるカタツムリを中心に研究しています。名古屋市においても乾燥化や市街地化により徐々に生き物が暮らしにくくなっています。環境を改善していくためにも、まずは多くの人に現状を知ってもらいたいです。



SDGsセンター長
林 秀敏 先生

生物多様性の保全はSDGsの最重要目標の一つであり、SDG14「海の豊かさを守ろう」と15「陸の豊かさを守ろう」として言及されています。生物多様性の維持は、豊かな自然の継承、社会・経済の持続的な発展を通して、我々の生活を豊かにするためにも不可欠です。本学の理学研究科や生物多様性研究センターの研究は、その保全を学術的に支え、未来の社会づくりに貢献しています。

お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局
(企画課内)

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

Tel : 052-853-8806

Mail : ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

